

まちの名に 歴史あり

問い合わせ 文化財事業団 (TEL 893・8111)

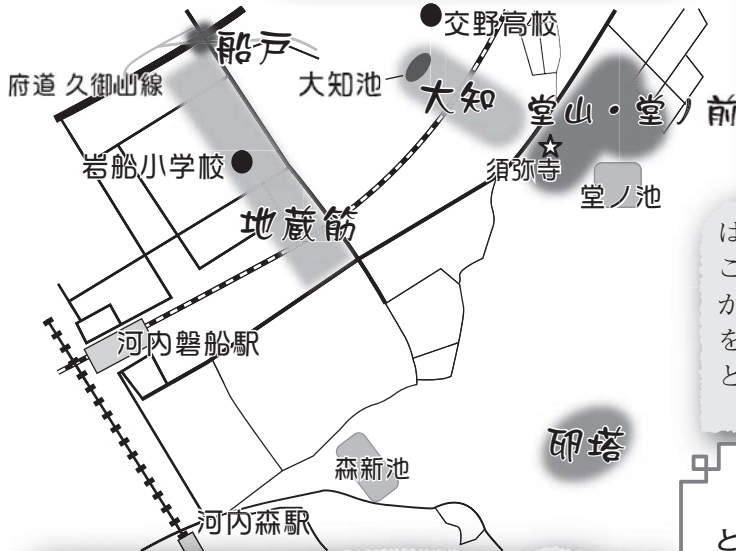
おち 大知

須弥寺の北側から交野高校グラウンド西側まで、階段状の田が連なった場所を大知と言います。

「おち」とは、落ちるや崖といった意味で、堂ノ池付近から大知の方へと順々に土地が低くなり、大知は崖状の地形となっており、それが地名の由来となっています。

現存はしていませんが、大知には上から流れてくる水をためる「大知池」がありました。このため池の水は、船戸付近を西へと流れ、官田地域(私部)にかんがい用水として利用されていました。

～ 森 ～



ふなと 船戸

岩船小学校の東側の道が府道久御山線と交差する場所を船戸と言います。船戸は川や海岸の渡し場という意味と、道祖神という意味があります。

この地域の船戸は道祖神を意味していると考えられます。森村の外れにあたる地蔵筋から出入りする旅人の安全や日頃の無病息災、家内安全を祈ったことでしょう。

どうやま どうのまえ 堂山・堂ノ前

須弥寺と観音堂が建っている地域を堂山・堂ノ前と言います。この地域は、須弥寺を中心に森地域の中心地でした。

この須弥寺の始まりについては、江戸時代の「須弥寺縁起」で、平安時代に弘法大師が草堂を建てたことによるとありました。しかし、平成9年の発掘調査で須弥寺から奈良時代の瓦が多数出土し、寺伝より年代が古いことが判明しました。

奈良時代に瓦葺の建物と言え、寺院か役所に限られ、この地域の交通の便などを考えると寺院であったと考えられます。須弥寺の



須弥寺



奈良時代の瓦

存在は、奈良時代にこの地域の人々が立派な瓦葺の建物を建造する力を持っていたことを証明しています。

らんとう 卵塔

森地域の南東の谷に入った地域を卵塔と言います。卵塔とは、主に僧侶の墓塔として使われる石塔のことを言い、塔身が卵形をしていることからそう呼ばれています。そこから転じて墓所そのものを卵塔と呼ぶようになりました。

また一方で、村人の言い伝えで卵塔は乱闘からきているという説もあります。これは鳥羽伏見の戦いで、幕府方の敗残兵が交野方面に逃れて来たため、村人は災難を恐れ、この谷に逃げ込んで、難を逃れたことから付けられた地名とされています。

歴史探訪 ～森～

とき・ところ 2月26日(火) 午前10時

に河内磐船駅南ロータリー集合

コース 須弥寺・かえる石・旧磐船村役場・川東神社

参加費 100円(保険・資料代)

定員 先着30人

申し込み・問い合わせ 2月1日(金) 午前9時から文化財事業団(TEL 893・8111)